

# 「安定した安全と品質で社会インフラとしての使命を果たす」

## 「ドライバー・フォークマンコンテスト」開く アサヒロジステイクス

アサヒロジステイクス（横塚元樹社長）と同社の取引先や協力輸送会社でつくるアサヒパートナーズ会（会長・川井博人東京日野自動車社長）は16日、埼玉県トラック総合教育センターで、第18回ドライバーコンテストと第6回フォークマンコンテストを開いた。このコンテストは、ドライバーやオペレーターのプロとしての自覚を再認識するとともに、自分の技量ほどの



挨拶する横塚社長

程度かを確認し、加えて同じ目標に挑戦することや仲間意識を高めることを目的に毎年開いているもので、

ドライバーからは各拠点から選ばれたトラックドライバー24名、フォークオペレーター12名、パートナーズ会からはドライバー25名、オペレーター11名の選手が参加した。挨拶に立ったパートナーズ会の川井会長は、「今、各社に共通する経営課題は、いかに人材を確保して育てていく方法をつくるかということ

だ。それに合わせて、お客様との信頼関係をしっかり築くことが大事だと思う。そこで最も大切なのはドライバーの皆さんだ。お客様の元へ、安全・確実に商品をお届けすることで信頼関係が生まれてくると思う。今日は、日頃培われた技術を使う存分、発揮していただきたい」と述べた。

次に横塚社長は、「物流は、電気やガス、水道と同じ社会インフラであり、不安定なったり途切れたりすると大変なことになる。インフラを不安定にする最大の要因は、事故でありミスであり、安全と品質がなければ、本当の意味で私たちが使命を果たすことができない。このコンテストを通じて、明日からの日本一安全で品質の高い物流の提供につなげていって欲しい」と挨拶した。

ドライバーコンテストは、学科と日常点検、運転技能の3競技の総得点で順位を決める。学科は正誤式で100点満点。日常点検は安全確認からエンジン、タイヤ、ブレーキオイル、バッテリー液、灯火などの基本的な項目をチェックするもので、冷凍機の作動点検も行う。日常点検は安全確認からタイヤ、エンジン、オイル、灯火の点検、冷凍機の作動などの基本的な項目を10分以内にチェックする。運転技能は3トと4トクラスがあり、200点満点で減点法を採用。各々乗車時から審査が始まり、運転コースはS字からクランク、車庫入れ、坂道発進、外周路走行を13分以内にを行う。

フォークマンコンテストは、リーチ式バッテリーフォークリフトとカウンタースタックエンジンフォークリフトを使用して、乗車から積み取り、格納、駐車までの実技のみを行い、安全項目重視で配点され減点法を採用。競技終了後には、点検・安全講習を行った。

なお総合優勝は、トラック部門では、アサヒパートナーズ会の新潟食品運輸・渡部浩嘉さんが、フォークリフト部門は、同会の陸トータルサービス・河西健二さんが各々獲得した。



運転技能競技



日常点検競技



フォークマンコンテスト